

## 「歴史を鏡として、未来を切り開こう」

総長先生
学生 皆さん、教師の皆さん

　まず奥島孝康総長のお招きに感謝いたします。この度は、かねてから盛名を馳せているみなさんの大学にお伺いして、若い友人たちと一堂に会し、ともにわれわれ両国人民の友好往來の歴史を振り返りつつ、両国關係の發展の見通しを展望する機会に恵まれましたことを、大きな喜びとするところであります。

　中国では、早稲田大学の名はよく知られています。早稲田大学は、日本の文化學術研究と建設人材養成の著名な学府であり、日本で最も早く中国の留学生を受け入れた所でもあり、廖仲愷、李大釗、彭湃ら中国革命の著名人は若かりし頃、ここで勉強したことがあります。いまや、早稲田大学は中国の多くの大学や研究機關と良好な關係を保っており、両国の學術、文化交流に積極的な貢獻をされています。

　人類はまもなく二十一世紀に入ろうとしています。新しい世紀はどのような世紀であるべきか、いかにして新しい世紀において、より恒久的な平和を実現し、より普遍的な繁栄を作り出すか、これは世界各国人民が直面している極めて重要な課題であります。私はこの度、貴国を公式訪問し、貴国の指導者並びに各界のかたがたと中日關係の将来について、率直かつ誠意のある突っ込んだ意見交換を行い、広範囲にわたって共通認識を得ることができました。双方は、二十一世紀に向け、平和と發展に力を注ぐ友好協力パートナーシップを確立しなければならないという点で、一致した認識に到達しました。これは、中日關係が新たな發展段階に入ろうとしていることを示すものであります。

　中国の古い言葉に「明鏡は形を照らすゆえん、古事は今を知るゆえん」というのがあります。世紀交替のこの重要な歴史的時期に、過去を掘り下げて回顧、総括し、長い歴史の流れから有益な經驗と前進の原動力を汲み取ることは、われわれが未来を正しく把握し、よりよく切り開いていくうえで、疑いもなく極めて重要なことであります。

　中国と日本は一衣帯水の隣国であり、両国とも悠久な歴史を有しています。私は少年時代から、千余年前の中国の唐代に、私の古里揚州の鑑真和尚が艱難困苦や危険のものともせず、六回も日本への渡航を試み、たびたびの失敗にもめげず、ついに中国の仏教、医薬学、建築、彫刻などを日本に伝え、当時の中日文化交流を促す傑出した代表になったことを知っています。中日両国人民の友好往來は悠久なる歴史を持っています。お互いに与えた影響の大きさ、またそれが続いた時間の長さは、世界の歴史の中でもまれに見るものであります。われわれ両国の先人は早くも二千年前から相互往來を始めました。秦と漢の時代に中国大陸から日本に伝わった生産技術と生産道具は、日本列島が漁獵と採取を主とする縄文時代から農耕を主とする弥生時代に入るのを促しました。南北朝の時期に、日本の歴史学界の間で「渡来人」と称されている中国の移民は、桑栽培と養蚕、絹織物製造及び製鉄の技術を日本に伝え、推し広めています。三世紀から五世紀までの間に、漢字が徐々に日本に伝わり、隋朝の時には、日本は典章・制度や文化知識を学ぶため、たびたび使節を中国に派遣しました。唐代になると、中日友好往來は空前の盛況を呈するようになり、日本の遣唐使、留学生、学問僧は続々と中国を訪れ、その数は五千人以上に達し、吉備真備と阿倍仲麻呂は、その中でも有名な代表であります。吉備真備は唐に滞在した十八年間に、儒家の經典を研鑽し、算術、音韻、天文、曆法、軍事学などを学びました。阿倍仲麻呂は詩文をよくし、大詩人の李白、王維との間に、厚い友情で結ばれました。

　このようにして、中国の古代文化典籍と文学作品が次々と日本に伝わり、両国の文化交流に大きな影響を及ぼしたのであります。日本の有名な作家川端康成は、日本が中国の古代文化を吸収し、それをよく融け合わせて、自らの審美の伝統を作りあげたと述べております。また、日本の著名な歴史学者井上清氏によれば、日本の歴史全体についていうなら、平安時代になした最大の貢獻は、漢字を利用して平仮名と片仮名をつくったことであります。これは、日本人が外来文化の学習に長じ、それを自らの實際と結びつけて新しいものを作り出す偉大な民族であることを物語っています。宋朝から清朝の前期にわたる間、貿易往來も中日往來の重要な一側面となりました。長い間の往來を経て、両国人民の間に相互尊重、相互学習の優れた伝統が樹立され、相互友好の深い学殖と重要な絆が形成されました。

　1840年のアヘン戦争後、中国は徐々に半植民地・半封建社会に転落してしまいました。当時、先進的な考えをもった中国人は中国を滅亡から救う道を探すため、外国のものを食べるように学び、一時期などは、日本へ行って学問に励み、視察することがブームとなりました。中国民主主義革命の先覚者孫文は十五回も日本に来ており、陳独秀、周恩来、魯迅、郭沫若、何香凝ら中国の多くの先進的な考えを持った人や大志を抱いた人は、みな日本で学習し、生活したことがあります。前後して日本に来て学問に励んだ中国人は数万人にものぼり、彼らは日本人民と仲良くつきあい、数々の胸をうつ美談を残しています。

　しかし、不幸なことに、十九世紀の末、日本は軍国主義の侵略、拡張の道を歩むようになり、1894年の甲午戦争のあと、中国の領土台湾を侵略、占領しました。また、1905年の日露戦争のあと、日本は中国の旅順と大連を一度占領したことがあります。二十世紀三十年代から、日本軍国主義は全面的な对中国侵略戦争を起こし、その結果、中国は軍民三千五百万人が死傷し、六千億ドル以上の経済的損失を蒙りました。この戦争は中国人民に大きな民族的災難をもたらし、日本人民もそれによって少なからぬ害を受けました。

　歴史の証人として、私はみなさんより若かった頃、国土の喪失、民族の危急存亡という苦痛を自らなめましたので、この史実を若い世代に話して聞かせる責任があります。また、長年中日友好に関心を寄せ、それを支持してきた年長者として、私は戦後両国が敵対から友好へ、干戈化して玉帛となる過程を目の当たりにし、平和友好の貴さをよく知っています。

　中華人民共和国成立後、毛沢東主席は中国人民に、あの侵略戦争の責任はごく少数の軍国主義者が負うべきであり、中国人民は日本人民と世代代仲良くつきあっていくべきであると教え導きました。両国關係正常化を促すため、中国は「民間が先行し、民で官を促す」ことを提起しました。周恩来総理は労をいとわず、自ら日本各界の方々と広くつきあい、たくさんの友人を作りました。両国の知名人と民間の数多くの人々は積極的に奔走し、多くの仕事をしました。千九百七十二年、双方の共同の努力を経て、両国政府は平和共存五原則を踏まえて、共同声明を発表し、国交を回復しました。中日關係はその時から新しい時代に入りました。千九百七十八年、われわれ両国はさらに平和友好条約を締結し、法律の上から中日關係の政治的基礎を一段と固め、中日共同声明の諸原則を再確認しました。今年は中日平和友好条約締結二十周年にあたります。われわれは中日共同声明、中日平和友好条約が定めた方向に沿って、恒久的な善隣友好關係を發展させるべきであります。鄧小平氏はかつて、中日両国人民が友好的に団結し、中日両国が親密に協力することは、両国人民の共通の願いであり、歴史發展の流れであると指摘したことがあります。

　二千余年にわたる中日往來の過程は、次に述べる非常に重要な歴史的真理を物語っています。すなわち、異なる民族、異なる国の間の往來は、平和友好の雰囲気の中で人民の願望に沿って行なってはじめて相互の共同發展と全人類の進歩事業に対し、大きな推進的役割を果たすことができる。また、いかなる武力侵略、他国人民の奴隸化、あるいは自らの文化と生活様式を他の民族に押しつけることも、必然的に大きな苦しみと災難をもたらし、失敗を運命づけられる、ということでもあります。人類がかつて大きな代価を払ってはじめて得たこの基本的經驗は、われわれ現代に生きるものと後生の人びとが格別にこれを大切にすべきであります。現代の世界では、各民族、各国の間の往來は、相互尊重、相互学習、平等互惠、友好共存を堅持して、われわれの住むこの地球にあるすべての国々が豊富多彩な發展の中でたえず共同の進歩をとげるよう促すべきであります。

　中国と日本は、アジアの、また世界の二つの重要な国であります。両国が長期安定の友好協力關係を樹立することは、地理的な強みもあれば、歴史的淵源もあり、両国人民の願いと根本的利益に合致しているばかりでなく、アジアと世界の平和と發展の崇高な事業にとっても有利であります。過去をしめくり、将来を展望して、次に述べるいくつかの重要な認識を得ることができると思います。

　第一に、艱難困苦をなめつくれた末、中日両国人民がともに努力して樹立した善隣友好關係をことのほか大切にし、守らなければなりません。二千年來の中日關係史をひもといて見ると、重大な曲折があったとはいえ、善隣友好はやはり主

## 以史为鉴 开创未来

校长先生，
同学们，老师们：

　首先，感谢奥岛孝康校长的邀请，使我有机会来到你们这座久负盛名的大学，同青年朋友们聚集一堂，共同回顾我们两国人民友好交往的历史，展望两国关系发展的未来。

　在中国，早稻田大学是人们熟知的名字。这里是日本文化学术研究和培养建设人才的著名学府，也是日本最早接受中国留学生的地方，廖仲愷、李大钊、彭湃等中国革命的著名人士早年曾在这里学习。今天，早稻田大学同中国许多大学和研究机构保持着良好的关系，为两国的学术文化交流作出了积极的贡献。

　人类即将迎来21世纪。新世纪应该是怎样一个世纪？如何在新世纪里实现更持久的和平和创造更普遍的繁荣？这是摆在世界各国人民面前的一个重大课题。我这次到贵国进行国事访问，同贵国领导人和各界人士就中日关系的未来坦诚深入地交换意见，达成了广泛的共识。双方一致认为，要面向21世纪，建立致力于和平与发展的友好合作伙伴关系。这标志中日关系将进入一个新的发展阶段。

　中国有句古话：“明镜所以照形，古事所以知今”。当此世纪之交的重要历史时刻，深刻地回顾和总结过去，从历史长河中汲取有益的经验 and 前进的动力，对于我们正确地把握未来，更好地开创未来，无疑是至关重要的。

　中国和日本一衣带水，比邻而居，两国都有着悠久的历史。我在少年时代就知道，一千多年前的中国唐朝，我的家乡扬州的鉴真和尚不畏艰险，六次东渡，百折不回，终于把中国的佛教、医药学、建筑和雕塑传到日本，成为当时促进中日文化交流的一位杰出代表。中日两国人民的友好交往源远流长，相互影响之深，持续时间之长，为世界历史所罕见。我们两国的先人早在两千年前就开始了相互往来。秦汉之际，中国大陆传到日本的生产技术和生产工具，促进了日本列岛从渔猎采集为主的绳文时代进到农耕为主的弥生时代。南北朝时，日本史学界称为“渡来人”的中国移民，在日本传播了植桑养蚕、制造丝织品和冶铁的技术。3至5世纪，汉字逐渐传到日本。隋朝时，日本多次派遣使节来中国，学习典章制度和文化知识。到了唐朝，中日友好交往更是盛况空前。日本的遣唐使、留学生、学问僧大批前往中国。吉备真备和阿倍仲麻吕，就是他们中的著名代表。吉备真备在唐18个年头，钻研儒家经典，学习律令、礼仪、音韵、天文和历法。阿倍仲麻吕善诗能文，同大诗人李白、王维结下深厚友谊。中国古代文化典籍和文学作品陆续传入日本，对两国文化交流产生了深远影响。日本著名作家川端康成说过，日本吸收中国古代文化，很好地融汇成自己的审美传统。日本著名历史学家井上清认为，就整个日本历史来说，平安时代完成的最大贡献是利用汉字创造了平假名和片假名。这生动地说明日本人民是善于学习外来文化，并结合自己的实际进行创新的伟大人民。从宋朝开始直至清朝前期，贸易往來也成为中日交往的一个重要方面。经过漫长的交往，两国人民建立了相互尊重、相互学习的优良传统，形成了相互友好的深厚底蕴和重要纽带。

　1840年鸦片战争后，中国逐步沦为半殖民地半封建社会。当时，先进的中国人寻找救亡图存的道路，如饥似渴地向外国学习。一时之间，到日本求学、考察成为时尚。中国民主革命的先行者孙中山先生15次到日本。中国许多先进分子和仁人志士，如陈独秀、周恩来、鲁迅、郭沫若、何香凝等，都在日本学习和生活过。先后到日本求学的中国人有数万人之多，他们同日本人民友好相处，留下许多动人的佳话。

　不幸的是，19世纪末，日本走上军国主义的侵略扩张之路，1894年甲午战争后，侵占了中国领土台湾。1905年日俄战争后，日本一度占领中国的旅顺、大连。20世纪30年代开始，日本军国主义发动全面侵华战争，致使中国军民3500万人伤亡，经济损失6000亿美元以上，这场战争给中国人民带来深重的民族灾难，也使日本人民深受其害。

　作为一个历史的见证人，我在比你们更年轻的时候，亲身经历了国土沦丧和民族危亡的痛苦，有责任把这段史实告诉年轻一代。作为一个多年关心和支持中日友好的年长者，我又目睹了战后两国从敌对到友好、化干戈为玉帛的进程，深知和平友好之可贵。

　中华人民共和国成立后，毛泽东主席教导中国人民，那场侵略战争的责任应由极少数军国主义分子承担，中国人民应该和日本人民世代代友好下去。为推动两国关系正常化，中国提出“民间先行，以民促官”。周恩来总理不辞辛劳，亲自同日本各界广交朋友。两国社会名流和广大民间人士积极奔走，做了大量工作。1972年，经过双方的共同努力，在和平共处五项原则的基础上，两国政府发表联合声明，恢复了邦交。中日关系从此开始了一个新的时代。1978年，我们两国又签订了和平友好条约，从法律上进一步巩固了中日关系的政治基础，着重确认了中日联合声明的各项原则。今年是中日和平友好条约缔结20周年。我们应该沿着中日联合声明、中日和平友好条约确定的方向，发展持久的睦邻友好关系。邓小平先生曾指出，中日两国人民友好团结，中日两国亲密合作，这是两国人民的共同愿望，是历史发展的潮流。

　中日两千多年交往的进程，说明了一个很重要的历史真理：不同民族、不同国家之间的交往，只有在和平友好的气氛中按照人民的意愿来进行，才会对他们的共同发展和整个人类进步事业产生巨大的推动作用。而任何以武力侵略、奴役别国人民，或者把自己的文化和生活方式强加于其他民族，都必然带来浩劫和灾难，是注定要失败的。这个人类曾经付出惨痛代价才得到的基本教训，值得我们的今人和后人格外珍重。在当今世界上，各个民族、各个国家之间的交往，应该坚持相互尊重，相互借鉴，平等互利，友好相处，以促进我们居住的这个星球上的所有国家，在丰富多彩的发展中不断地实现共同进步。

　中国和日本是亚洲也是世界上的两个重要国家。两国建立长期稳定的友好合作关系，既有地理的优势，又有历史的渊源，不仅符合两国人民的心愿和根本利益，而且有利于亚洲和世界的和平与发展的崇高事业。总结过去，展望未来，可以得出几点重要的认识。

　第一，要百倍珍惜和维护中日两国人民历尽艰辛共同努力建立起来的睦邻友好关系。纵观两千年來的中日关系史，尽管有过严重的曲折，但睦邻友好是

流をなしています。この功績は両国の人民のものであり、両国の遠見を持った政治家のものでもあります。現在と将来をとわず、われわれ両国の人民と政治家たちは、引き続きこの友好関係を丹念に育てあげ、発展させなければなりません。中日友好に有利なことは、全力をあげてやらなければならない、中日友好に不利なことは、絶対にやってはなりません。こうすれば、われわれ両国の友好関係はたえず前向きに発展することができ、永遠に仲のよい隣人となることのできるのがあります。

第二、中日関係史に現れたあの不幸な出来事を直視し、その中から歴史的教訓を真に汲み取らなければなりません。「前事を忘れざれば、後事の師なり」といいます。軍国主義をやれば、隣国に大きな災難をもたらし、国際平和と安全に危害を及ぼすばかりでなく、自国の人民にも危害を受けさせ、国力をびどく衰退させるという局面を作り出すことは、歴史的实践によって立証されています。今日日本が経済大国に発展できたのは、まさに平和と発展の道を歩んだ結果であり、隣国と平和につき合った結果であります。したがって、日本の国益から出発しても、またアジアと世界の平和と発展の促進から出発しても、日本はあくまで平和と発展の道を歩み、正しい歴史観で国民と若い世代を導くべきであって、いかなる形の軍国主義の思潮と勢力の再度の台頭をも絶対に許してはなりません。こうしてこそ、中日友好は初めてたえず強化できるのであり、日本もはじめて一歩進んで平和と発展という好ましい姿で、アジア諸国と国際社会の信頼と尊重を得て、国際実務の面で自らのしかるべき役割を発揮することができるのであります。

第三、時代の前進につれて、中日両国関係のたえまない前進と発展を促さなければなりません。今日われわれ両国が実現した友好関係は、両国人民の二千年におよぶ往来の中で形成された伝統的友情が凝集されているばかりでなく、平和共存五原則という現代世界で公認されている国際関係の準則を基礎として樹立されているものでもあります。われわれは長期の観点から中日関係を入念に観察し、歴史の流れに順応しつつ、時代のテーマを把握し、様々な妨害を取り除き、厳格に国際関係の基本原則に則って事を運ぶべきであります。こうすれば、われわれはかならず新世紀に向けた平和と発展に力を注ぐ友好協力パートナーシップを真に確立することができるのであります。

アジアは人類文明の揺籃の一つです。アジア各国人民は燦然と輝く東方文明を創出し、世界文明に永久不滅の貢献をしています。近代になってから、アジアの多くの国々は植民地支配と外部からの侵略を受けましたが、アジア人民が民族解放と国家独立のため、長期にわたって英雄的闘争を進め、ついに植民地主義の枷から脱却し、自らの運命を握りました。二十世紀におけるアジアのこの百年の歴史的進行過程は、アジア人民が植民地主義、帝国主義に反対し、国家独立と民族解放をめざす雄渾たる絵巻を展開するものであり、アジア人民が貧しく立ち遅れた状態から抜け出して強大化をはかり、世界民族の中で崛起する雄大な史詩でもあります。ここ二、三十年来、アジア経済は急速に成長し、アジアは世界で発展の活力に富む地域の一つとなりました。アジア各国は各自の努力と相互協力を経て、本地域と世界の平和と発展に極めて重要な貢献をしました。アジアはますます世界の安寧と繁栄を促す重要な力となってきています。

アジアの前進する道は決して平坦なものではありません。経済のグローバル化の趨勢は加速的に発展し、科学技術は日進月歩の勢いを見せ、知識経済は興起しつつありますが、これらの動きはアジアにチャンスを与えると同時に、挑戦をももたらしています。不公正、不合理な国際政治・経済秩序は、まだ根本から改められていません。アジアの一部の国々の経済には、長年の快速成長の中で、若干のさし迫った解決を要する際だった問題も沈積しています。昨年勃発した金融危機によって、アジアの一部の国々の経済発展は重大な困難に直面しています。しかし、アジアは地域が広く、資源に恵まれ、市場の潜在力が大きいことを見ても取るべきです。アジア人民は昔から勤勉であり聡明なことで世界に知られています。アジア各国は自国経済を発展させ、地域協力を展開する面でも、非常に大きな成果をあげてきました。経験をきちんとしめくり、必要な改革と調整を行い、東方文化の優れた伝統を引き続き発揚し、国際的協力を強化し、相互に援助しあい、とくに先進諸国が発展途上国をより多く援助しさえすれば、このところ金融危機の揺さぶりと影響を受けている国々と地域は、かならず一時的な困難を克服して、新たなより大きな発展と進歩をとげることができるものと私は信じています。

いまや中国人民は中国共産党の指導の下で、意気さかんに改革開放と社会主義現代化建設を進めています。今年、わが国は特別大きな水害に見舞われ、またアジア金融危機の影響を受けましたが、経済と社会は引き続き安定し発展しています。われわれは経済の活性化を一段と推進するため、いま改革の深化、構造の調整、内需の拡大をはかっています。同時にわれわれは人民元の価値の安定を保ち、関係諸国にも力の及ぶ限りの援助を提供し、アジア金融危機の緩和と世界経済の安定のために、自らの責任を果たしています。中国は改革開放を二十年間進めて、世界の注目を集める巨大な成果を上げました。中国共産党第十五回全国代表大会は世紀にまたがる発展の青写真を制定しました。われわれは確固として変わることなく鄧小平氏の切り開いた、中国の特色をもつ社会主義を建設する道をひき続き歩んでいく決意であります。

中国人民はわき目もふらず誠心誠意現代化建設を推進していきます。経済面では、社会主義市場経済体制の樹立を加速し、工業化及び経済の社会化・市場化・現代化を実現し、人民の生活水準をたえず高めていきます。政治面では、社会主義民主を一段と発展させ、法によって国を治め、社会主義法治国家を建設し、人民に国と社会の事務を管理する権力を十分に行使させることを保証します。文化面では、目を現代化および世界と未来に向けた、民族的・科学的・大衆的な社会主義文化を建設し、科学と教育による国家振興の戦略を実行し、全民族の思想道德素質と科学文化素質をたえず高めていきます。要するに、中国を富強、民主、文明の現代化した国に築き上げなければなりません。

中国人民は確固として変わることなく祖国統一の大業を成し遂げます。これは中華民族の息子と娘の揺るぎない共通の願いと決意であります。「一国二制度」という方針に導かれて、香港はすでに順調に祖国への復帰を実現し、来年は澳門も祖国の懐に戻ってきます。中国政府は引き続き「平和統一、一国二制度」の方針を堅持し、台湾問題を最終的に解決するものであります。中国の完全な統一の実現は、アジアと世界の平和と安定の擁護に役立つものであり、それ以外のなものでもありません。これとは逆に、いかなる方式にせよ、「二つの中国」、「一つの中国、一つの台湾」、「台湾独立」をもくろんでも、それは必然的にこの地域の緊張情勢をかもしだし、アジアと世界の平和と安定に危害を及ぼすにちがいありません。

中国人民は終始変わることなく独立自主の平和外交政策を実行し、長期にわたって平和で安定した国際環境、とりわけ良好な周辺環境を構築するために努力するものであります。中国は地域と世界の平和を擁護する確固たる力です。たとえ中国は発展しても、絶対に他人をあなどるようなことはしません。中国は永遠に覇を唱えません。「親仁善隣、国之宝なり」といいます。われわれは平和共存五原則を堅持する基礎の上になつて、すべての隣国及び世界各国と友好協力を発展させ、世界平和を擁護し、共同発展を促す崇高な事業にたえず新たな貢献をするものであります。

中国は世界最大の発展途上国であり、いまなお社会主義の初級段階にあります。中国が基本的に現代化を実現し、全人民の共同の裕福を実現するには、なおも長期にわたって努力を傾ける必要があります。われわれは引き続き刻苦奮闘し、すばやく行動を起こして世界の経済、科学技術発展の流れに追いつかなければなりません。われわれは引き続き対外開放を拡大し、人類のすべての進んだ文明成果を積極的に吸収して、われわれの現代化建設を速めなければなりません。中日両国は平等互恵の原則にのっとり、引き続き貿易、投資、金融などの面における協力を強化し、ハイテク、環境保全など新たな協力分野を開拓、拡大し、協力のレベルをたえず高めるべきです。われわれはまた地域協力を促し、国際金融体制を改革して、完全なものにし、公正かつ合理的な国際新秩序の確立を推し進めるため、ともに積極的な役割を果たすべきであります。

麗しい未来は、われわれの手で創りださなければなりません。未来はとどのつまり若い世代のものです。わたしは中日両国青年が互いに学びあい、理解を深め、友情を増進し、協力を発展させ、両国人民の世世代代の友好という崇高な目標を実現させるため、またアジアと世界の平和、繁栄と進歩を促すため、ともに努力するよう心から希望いたします。

きょうの演説を終えるにあたり、わたしはかつて早稲田大学で学んだ李大釗の名言を中日両国の青年にはなむけの言葉としてお贈りしたいと思います。「世界の文明と人類の幸福を増進し、吾が青春でもって、青春の人類をうち建てよう」。

以上をもちまして、私の演説を終わります。ご清聴ありがとうございました。

主流。这要归功于两国人民，也要归功于两国有远见的政治家。无论是现在还是将来，我们两国人民和政治家们，都要继续精心培育和发展这种友好关系。有利于中日友好的事，要竭尽全力去做。不利于中日友好的事，决不要去做。这样，我们两国的友好关系就能不断向前发展，就能永做好邻居。

第二，要正视中日关系史上出现的那段不幸经历，从中真正吸取历史教训。“前事不忘，后事之师”。历史实践证明，搞军国主义，不仅给邻国带来深重灾难，危及国际和平与安全，也使本国人民遭受危害，造成国力严重衰退的局面。而今天日本所以发展成为经济大国，则是得益于走和平发展的道路，得益于同邻国和平相处。因此，无论从日本的国家利益出发，还是从促进亚洲和世界的和平与发展出发，日本都应坚持走和平发展的道路，用正确的历史观引导国民和青年一代，而绝不能允许任何形式的军国主义思潮和势力重新抬头。这样，中日友好才能不断加强，日本也才能进一步以和平发展的良好形象，博得亚洲国家和国际社会的信任和尊重，从而在国际事务中发挥自己应有的作用。

第三，要随着时代的前进推动中日两国关系不断向前发展。今天我们两国实现的友好关系，不仅凝结了两国人民在两千年交往中形成的传统友谊，也是建立在和平共处五项原则这一当代世界公认的国际关系准则基础之上的。我们应该以长远的观点来审视中日关系，顺应历史潮流，把握时代主题，排除各种干扰，严格按照国际关系的基本原则办事。这样，我们就一定能够真正建立面向新世纪的致力于和平与发展的友好合作伙伴关系。

亚洲是人类文明的摇篮之一。亚洲各国人民创造了璀璨夺目的东方文明，对世界文明进步作出了不可磨灭的贡献。近代以来，亚洲许多国家都遭受了殖民统治和外来侵略，亚洲人民为民族解放和国家独立长期英勇奋斗，终于摆脱殖民主义的枷锁，掌握了自己的命运。亚洲20世纪这一百年的历程，是一幅亚洲人民反对殖民主义、帝国主义，争取国家独立和民族解放的雄浑画卷，是一部亚洲人民为摆脱贫穷落后而奋发图强、崛起于世界民族之林的宏伟史诗。近二三十年来，亚洲经济快速增长，成为世界上富有发展活力的地区之一。亚洲国家通过各自的努力和相互合作，对本地区和世界的和平与发展作出了重大贡献。亚洲越来越成为促进世界安宁和繁荣的一支重要力量。

亚洲前进的道路并不平坦。经济全球化趋势加速发展，科技进步日新月异，知识经济正在兴起，给亚洲带来了机遇，也带来了挑战。不公正不合理的国际政治经济秩序还没有得到根本改变。亚洲一些国家的经济在多年快速增长中又积累了一些亟待解决的突出问题。去年爆发的金融危机，使亚洲一些国家的经济发展面临严重困难。但是应该看到，亚洲地域广阔，资源丰富，市场潜力巨大。亚洲人民素以勤劳智慧著称于世。亚洲国家在发展本国经济和开展区域合作方面也已取得很大成就。我相信，只要善于总结经验，进行必要的改革和调整，继续弘扬东方文化的优秀传统，同时加强合作，互相帮助，特别是发达国家要多帮助发展中国家，那么目前受到金融危机冲击和影响的国家与地区，就一定能够克服暂时的困难，赢得新的更大的发展和进步。

当前，中国人民正在中国共产党的领导下，意气风发地推进改革开放和社会主义现代化建设。今年，我国遭受了特大洪涝灾害，又受到亚洲金融危机的影响，但经济和社会继续稳定发展。我们正在深化改革，调整结构，扩大内需，以进一步增强经济活力，同时我们保持人民币币值稳定，并向有关国家提供了力所能及的援助。我们为缓解亚洲金融危机和稳定世界经济尽到了自己的责任。中国改革开放进行了20年，取得了举世瞩目的巨大成就。中国共产党第十五次全国代表大会已制定了跨世纪发展的蓝图。我们将坚定不移地沿着邓小平先生开创的建设有中国特色社会主义道路继续前进。

中国人民将一心一意地推进现代化建设。在经济上，加快建立社会主义市场经济体制，实现工业化和经济的社会化、市场化、现代化，不断提高人民生活水平。在政治上，进一步发展社会主义民主，依法治国，建设社会主义法治国家，保证人民充分行使管理国家和社会事务的权力。在文化上，建设面向现代化、面向世界、面向未来的，民族的科学的大众的社会主义文化，实行科教兴国战略，不断提高全民族的思想道德素质和科学文化素质。总之，就是要把中国建成富强民主文明的社会主义现代化国家。

中国人民将坚定不移地完成祖国的统一大业。这是中华儿女不可动摇的共同愿望和决心。在“一国两制”方针的指引下，香港已顺利实现回归祖国，明年澳门也将回到祖国怀抱。中国政府将继续坚持“和平统一、一国两制”的方针，最终解决台湾问题。实现中国的完全统一，只会有利于维护亚洲和世界的和平与稳定。反之，以任何方式搞“两个中国”、“一中一台”和“台湾独立”，就必然造成这一地区的紧张局势，危及亚洲和世界的和平与稳定。

中国人民将始终不渝地奉行独立自主的和平外交政策，努力构筑一个长期和平稳定的国际环境特别是良好的周边环境。中国是维护地区和世界和平的坚定力量。即使中国发展了，也绝不会欺负别人。中国永远不称霸。“亲仁善邻，国之宝也”。我们坚持在和平共处五项原则的基础上同所有邻国和世界各国发展友好合作，为维护世界和平、促进共同发展的崇高事业而不断作出新的贡献。

中国是世界上最大的发展中国家，现在仍处于社会主义初级阶段。中国基本实现现代化，实现全体人民的共同富裕，还需要进行长时期的努力。我们必须继续艰苦奋斗，急起直追世界经济科技的发展潮流。我们必须继续扩大对外开放，积极吸收人类一切进步的文明成果，来加快我们的现代化建设。中日两国应该本着平等互利的原则，继续加强贸易、投资和金融等方面的合作，拓展高新科技、环境保护等新的合作领域，不断提高合作的水平。我们还应该共同为促进区域合作，改革和完善国际金融体制，推动建立公正合理的国际新秩序，发挥积极的作用。

美好的未来要去创造。未来终究属于年轻一代。我衷心希望中日两国青年，相互学习，加深了解，增进友谊，发展合作，为实现两国人民世世代代友好的崇高目标，为促进亚洲和世界的和平、繁荣与进步而共同努力。

在结束我今天的讲话之时，我想用曾在早稻田大学学习过的李大钊先生的一句名言，作为给中日两国青年的赠言：为世界进文明，为人类造幸福，以青春之我，创建青春之人类。

谢谢各位。

【引用 <http://www.waseda.jp/jp/news98/981128k.html>】

【引用 <http://www.china-embassy.or.jp/chn/xny/gk/t62648.htm>】